

伊那弥生ヶ丘高校「総合的な探究の時間」グランドデザイン

弥生探究の合言葉：^う ^ー ^だ - observe orient decide act
!OODA- O O D A! *!OODA(^{observe}よく見て聞いて、^{orient}データを 集めて状況を理解して、^{decide}判断して、^{act}動く)!

身につけたい「8つの力」

「きく力」「対話力」「課題発見力」「判断力」「実行力」「思考力」「表現力」「創造力」

1年生

探究基礎(前半)

探究のための基礎的手法を学び
 「型」を身につける
 ステージ1「基礎手法を学ぶ」
 ・対話、表現、調べ方
 ステージ2「Logical Thinking」
 ・論理的思考力・表現力

課題探究×郷土愛プロジェクト(後半)

・地域の魅力や課題を知る・調べる
 ・行動する・分析する

2年生

アクションを起こせ

アカデミックチャレンジ(高大連携)(4~6月)

大学の先生からいただいたお題(問い)に対して、自分で考えた進め方で仮説を立て、資料を集め、分析・検証して、「こたえ」を探究する

個人探究(7月~)

自分自身の問いをたて、【仮説~資料収集・アクション・分析~検証】のサイクルをすすめ、発表する

3年生

卒業後の自己実現に向けて、
 1,2年次の学びを活かす
 ・自身の学びを深化させられる
 進路は何か(進路研究、志望理由書)
 ・その学びをどう表現するか
 (小論文、面接・プレゼンテーション等)
 ・進路希望を実現させるために必要な
 学力は何か

<たくさんのサポーター>

- ・郷土愛プロジェクト
- ・県内各大学(アカデミックチャレンジ)
- ・信州大学農学部(伴走者としての学生参加)
- ・信州大学教育学部 荒井教授(学術研究院)による講演
- ・伊那商工会議所(伴走者としてアシスト、講師派遣など)
- ・伊那北高校(ピア検証、発表会交流など)
- ・ロータリークラブと連携(地域企業から講演・アドバイザー参加等)
- ・国立信州高遠青少年自然の家(探究オリエンテーション合宿)

<探究のツボ>

1. 自分の問いを見つけることに時間をかける
 (自分の興味や「好き」を追求して、誰かが喜ぶ、誰かの役に立つ問い)
2. 「研究」≠「探究」 ※ 結果 < プロセス
3. 答えのない学びを楽しむ(「見えにくい学力」「見えない学力」を育てる)
4. オリジナルデータを取って仮説を検証 ※調べ学習で終わらない
5. 仮説を立ててアクション、結果を検証する ※体験学習で終わらない
6. 失敗することで成長する ※トライ&エラー
7. 検証を通じて、気づきを増やし学びを深める
 ※(本校・他校生徒との)ピア検証、信大生の伴走…
8. 主役は生徒。教員や講師はファシリテーターやアドバイザーとして生徒を支援する